

## <公民>

# 主体的に学ぶ公民科授業づくり ——ディベートを取り入れた課題学習の工夫——

県立宮古工業高等学校教諭 宮 城 哲 夫

## I テーマ設定の理由

変化の激しい現代の社会で、その社会事象を直接の内容とする公民科の授業に求められているのは何だろうか。

高等学校学習指導要領の第3節公民の目標は、「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て…」と記されている。つまり、公民科の授業に求められているのは、ある社会事象に対し、受け身ではなく積極的に働きかけ、他者の意見と関わりながら、価値判断し、よりよい解決方法をみつけるという主体的な態度と能力を育成することだと考える。

そのような態度と能力を培うためには、生徒が主体的に活動し、多角的・多面的に追究できる授業展開が必要となる。

しかし、これまでの私自身の授業実践を振り返ってみると、知識を伝達するということに重きを置き、生徒が主体性を発揮する場が少なかった。そのため、生徒が学習に対して受け身になり、自ら追究しようとする姿勢があまりみられない。また、社会問題についての生徒の意識も自分中心で利己的な意見が多くみられる。

そこで、生徒が広い視野に立ち、主体的な学習を保障する方法として課題学習に着目した。この学習法を工夫し取り入れることにより、広い視野にたって、主体的に学習に取り組むようになるのではないだろうか。

以上のことから次のような仮説を立て研究を進めて行きたい。

### <研究仮説>

公民学習にディベートを取り入れた課題学習を工夫すれば、生徒が主体的に学習に取り組むであろう。

## II 研究内容

### 1 主体的に学ぶ生徒像とそれを成立させる要素

前述した公民科の目指す主体的な態度と能力を踏まえ、本研究で目指す主体的に学ぶ生徒像を次のように考える。

---<本研究で目指す主体的に学ぶ生徒像>---

- 自ら課題を設定し、追究することができる生徒
- 級友と協力し、まとめ、発表することができる生徒
- 自分と異なる立場をふまえ、自分なりの意見を持てる生徒

このような主体的に学ぶ生徒を具現するためには、①学び方の知識と技能 ②自ら学ぶ意欲 ③基礎・基本的な学力の三つの要素を高める主体的な授業を工夫し展開していくことが不可欠だと考える。

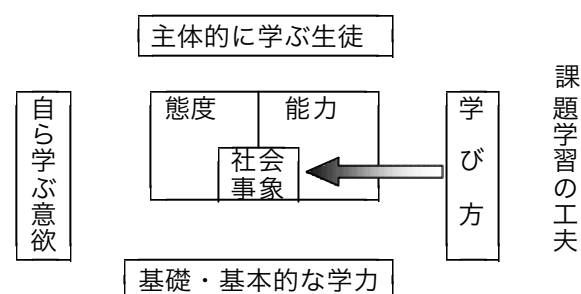


図1 主体的に学ぶ生徒を  
成立させる3つの要素  
(東京学芸大附属小金井小, 1986, 改変)

### 2 主体的な学習と課題学習

今回の公民科の指導要領改訂の要点に、「課題を選択して主体的に追究させる学習の充実」が挙げられているのも、課題学習を通して主体性の育成を目指したものである。

そこで、主体的に学ぶ能力と態度を育てるために問題解決学習の学習過程にディベートを取り入れた課題学習を工夫する。

以下に、図1で示した主体性の3つの要素と課題学習の関わりについて述べる。

#### (1) 学び方と課題学習

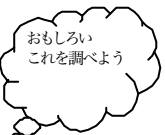
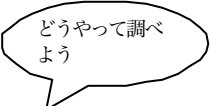
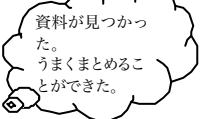
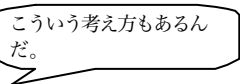
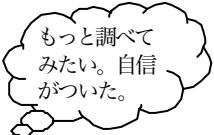
主体的な学習には、ある社会事象に出会った時に必要な情報を自分なりに収集し、処理するための知識や技能を身につけるといふ学び方の知識や能力が不可欠である。

学び方は、北俊夫によれば、次のような能力に支えられている。

- ①自分の問題点や課題を見つける力
- ②問題解決への見通しを立てる力
- ③自力で問題解決する力
- ④友達と考えを深め合う力
- ⑤学習成果を生活や地域に生かす力
- ⑥自分の学習に対して自己評価する力

上記の能力を育むためには、表1の課題解決の学習活動の体験が重要である。それは、まず、自分で資料を調べ、教師や級友からの助言を求め、グループのメンバーと協力し合いながら解決し、その成果をまとめ、効果的に発表及びディベートを行う。そして対立する問題について自分と異なる意見と練り合うことで考えが深まったり、新たな課題をみつけるという活動である。東京学芸大付属小金井小によれば、「学ぶ道筋を学習を通して身につけておけば、新しい教材を学習する時にはこの学び方を駆使していくことが、自分でできるようになる。」としている。つまり、課題解決の学習活動を体験することが、上記の能力を育み、学び方の習得につながるのである。

表1 課題学習の過程

| 過程     | 生徒の活動及び学ぶ喜び                                                                                                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題設定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材（社会事象・資料）との出会い</li> </ul>                                              |
| ↓計画    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を見つけたり選んだりする。</li> <li>・調べる計画を立て解決方法を探る。</li> <li>・役割分担をする</li> </ul>  |
| ↓追究・解決 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・追究する。</li> <li>・まとめる</li> </ul>                                          |
| ↓発表    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現する。ディベートを行う（図表・ロールプレイング）</li> </ul>                                    |
| ↓発展    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価する。</li> <li>・感想・反省</li> <li>・新しい課題をもつ</li> </ul>                    |

## (2) 自ら学ぶ意欲と課題学習

個々の生徒が、積極的に社会的事象に関わろうとする態度がなければ、主体的な学習は成立しない。このような態度は、学習意欲と深く関わっている。もっと勉強したいという内なるエネルギー（意欲）を高めることができれば、態度も育まれるだろう。

学習意欲の要因として外発的動機づけと内発的動機づけがある。生涯にわたり主体的に取り組むことから考えれば、「学習したいから学習する」といった行動そのものが目標となり、行動が内発する内発的動機づけが重要である。そのためには、生徒が「なぜだろう」から「調べたいな」（知的好奇心）、「自分で決めて学んでいるんだ（自己決定感）」「自分はこんなことができるんだ」（自己有能感）という気持ちを起こさせることが大事である。この点、課題学習では、その学習過程において様々な学ぶ喜び（内発的動機づけ）を経験できる（表1参照）。それが以後の学習の自ら学ぶ意欲につながるのである。

以上のことから、課題学習の経験は、自ら学ぶ意欲を高め、それと同時に積極的に社会的事象に関わろうとする態度を育成するのに、有効だといえよう。

## (3) 基礎・基本と課題学習

主体的な学習は、「基礎・基本的な学力」の基盤の上に成立する。既習の内容が定着していないことで学習意欲がなくなってしまうような配慮が必要である。

ある社会事象に接しても基礎・基本的な知識がなければ問題を解決するための見通しも立てにくいし、学習意欲もわいてこない。そこで課題設定の前と最後には、単元の基礎・基本的事項を確認する。それでも不十分な生徒には、課題設定及び追究の段階で教師が支援する。また、問題解決学習では、グループの学習形態をとることにより、級友の支援でお互い高め合い基礎・基本を補い合うこともできる。このように、基礎・基本の配慮さえ怠らなければ、課題学習は、学び方を学び、自ら学ぶ意欲を育み、基本的な学習展開を促す上で効果的である。

## 3 主体的な学習を育む工夫

### (1) 課題及び論題の設定の工夫

課題学習において何を課題及び論題として設定するかが重要な問題である。その方法としては、主体が誰かという点で次の二つに大きく分かれる。まず、教師が教科の内容や教材から問題を選び、学習課題として生徒に提示する方法である。次に教科の内容や教材から直接生徒が課題を発見し設定する方法で

ある。篠原昭雄は、「公民の学習課題は、全く生徒の自由な発想や関心で設けられるのではなく、その学習目標にせまるような学習課題を生徒の意欲や自発性と結びつくように持たせること」としている。この点を踏まえ、単元のねらいにそった課題を生徒自身から導き出したい。そのためには、教師の適切な資料の提示や発問、助言を工夫したい。

そして生徒が発見した課題を整理し、複数にまとめ、グループで追究する複線型の方法をとりたい。(図2参照)

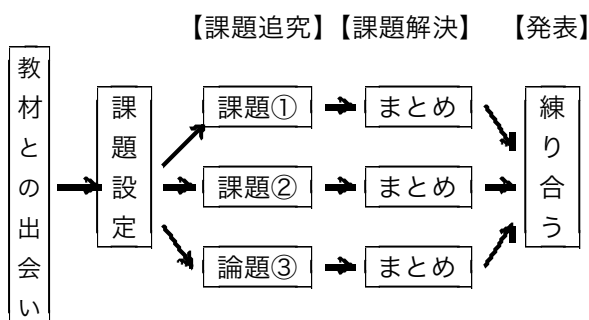


図2 「複線型」の課題追究

また、グループ課題以外にも、個人で別の課題を追究したい場合は、独自の課題として追究させたい。一方、ディベートの論題も単元の学習内容に沿いながら、生徒の意志を反映させることを念頭に置き、その設定に関して特に次の点に注意したい。

- ① 討論する余地があり、かつ話題性があるか。
- ② 中心課題はひとつか。
- ③ 感情的及び抽象的表現が使われていないか。

## (2) 情報収集・リサーチでの支援

課題学習及びディベートの成功は、課題の解決、リサーチ、論理の構築などの準備にかかっているといっても過言ではない。課題の解決は、教師が一方的に決めつけるものではなく、多様な解決策を生徒自身が見つめることが大切である。その点をふまえてそれぞれの段階で各グループの活動状況を把握し、適切な助言を与えることが求められている。

### ① 学習環境の整備

図書館やインターネットの検索、新聞、教科書等から調べ、必要な情報をカードに書き出させ準備させる。あらかじめ、生徒が利用しやすい図書を用意しておくことも大事だ。(例えば、年刊の用語辞典(「現代用語の基礎知識」「イミダス」) 年鑑(「時事年鑑」「朝日年鑑」) 各種白書、新聞の縮刷版、「日本の論点」等、論題テーマに関する書籍など

### ② インターネット活用の工夫

インターネットをあまり利用したことのない生徒

もいるのでアクセスの仕方や検索方法を指導する。どうしても時間がかかったり、見つけきれなかったら、教師がその内容を事前にまとめたリンク集を紹介する。

### (3) 情報分析から理論構築までの支援

ディベートの本番の前に紙上討論を試みさせる。論題に対し、グループ内で、肯定派、否定派に分かれ、それぞれの立場で文を書かせる。そしてそれを交換し、回ってきた文に対して反問を書く。お互いに数人分書きあったら元にもどす。こうすることにより、相手に質問する練習にもなるし、相手からの質問も予想できる。それをもとにグループでディベート準備シートに記入し、本番に備える。

### (4) 注意深く聞き取らせるための工夫

#### ① 意志表示カード

一人一人が参加できるディベートにするため、聴衆には、二色のカードをもってもらい、ディベーター(論者)の発表に応じてその意志を表示する。(例：赤…話者の意見が全くわからない。青…よく分かり納得できる)

#### ② 判定表と聞き取りカード

判定表とディベートの内容を聞き取りカードに記入させることにより、授業に参加させることができる。

### (5) ディベート後の指導

ディベートが終わったら論題について小論文を書いてもらう。そして自分の考えをまとめ、新たにどういった課題が見つかったのかを確認する場にした。

### (6) 評価の工夫

北俊夫は、「自己評価」の意義について「教師という他者によってしか、自分の価値がわからないのでは真に主体的に生きているとは言えない。自分を評価する作業を通して自らの生活や学習の目標を明確に持ち、自分を教育していこうとする意志や態度、能力が育てられていく」としている。また、生徒は友だちからの評価によって客観的に自己を見つめ、意欲を一層喚起させようとする意志が働く。

つまり、自己評価と相互評価を取り入れることにより、学習意欲を高め、主体的な学習を促すのである。

## III 指導の実際

### 1 大単元名 国際政治と日本

## 2 単元の指導計画 (6時間)

### 第1時 【課題及び論題の設定】

- ・ディベートのビデオの視聴し、イメージをもつ。
- ・生徒が希望する課題と論題を学習のねらいにそっているか話し合いながら設定する。

### 第2・3時 【学習計画をたてる・課題追究】

- ・グループ単位で学習課題追究の計画をたてる。
- ・学習課題追究のための手順や方法を話し合う。
- ・インターネットでの検索方法を習得する。
- ・情報を収集し、分析・整理する。
- ・紙上ディベートを行い、相手チームの尋問に対するの予想及び対策を練る。
- ・どのような形でまとめ、発表するか話し合う。

### 第4・5時 【課題学習の発表及びディベートマッチ】

- ・調べた課題について発表する。
- ・ルールに従ってディベートマッチを行う。  
論題A「自衛隊のPKO派遣は、やめるべきである」  
論題B「日本は、日米安保条約を廃止すべきである」  
発表課題C「日本の対外関係」  
発表課題D「これからの課題(北方領土など)」

### 第6時 【ディベートマッチ・学習のまとめ・評価】

- ・ディベートマッチを踏まえ、自分の考えを小論文に書く。

- ・自己評価、相互評価を行う。

## 3 本時の指導 (6/6)

(1) 小単位 日本の国際的地位と役割

(2) 題材 日本の安全保障の在り方

(3) 本時の目標

- ① ディベートを通して日米安全保障条約について多面的・多角的な見方ができる。
- ② 国際平和に貢献するための日本の役割と進路について考察できる。

(4) 評価の観点

- ① 日本の安全保障の在り方について関心を持ち、意欲的にディベートにし、積極的に発言したり、話し合ったり、意見を聞いたりできたか。＜関心・意欲・態度＞
- ② 効果的な資料や情報に基づいて自分の考えを発表したり討論したりできたか。＜資料活用・表現＞
- ③ 論題に対して多面的な見方や考え方ができたか。＜思考・判断＞

(5) 授業仮説

ディベートで、他者の意見と練り合うことで多面的・多角的な見方・考え方ができるようになり、さらに自分の考えを深めることができるであろう。

## (6) 授業過程

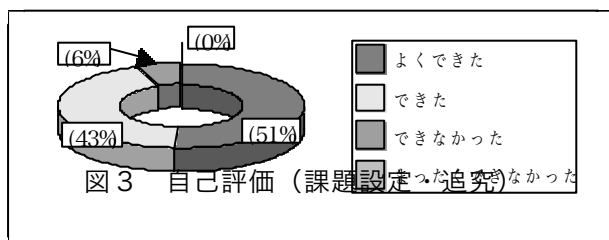
| 過程 | 学習内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 生徒の活動・触れて欲しい議論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教師の支援(☆)評価(★)留意点(◇)                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を確認する。論題「日米安全保障条約を廃棄すべきである」</li> <li>・役割の確認を行う。司会、計時、ディベーター(論者)の自己紹介</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を知る。</li> <li>・審判は聞き取りカードと判定用紙の記録方法を確認する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆論題を提示する。</li> <li>☆論点がかみ合うように、論点を絞って話すことを確認する。</li> <li>☆聞き取りカード、判定用紙を配布する。</li> </ul>                                                                                                                                  |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートマッチを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           肯定 立論(5分)<br/>           作戦タイム(1分)<br/>           否定 反対尋問(2回)<br/>           否定 立論(5分)<br/>           作戦タイム(1分)<br/>           肯定 反対尋問(2回)<br/>           相互討論(1分以内数回)<br/>           作戦タイム(1分)<br/>           否定 最終弁論(2分)<br/>           肯定 最終弁論(2分)         </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートの司会と計時を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">肯定側の予想される主張</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本は軍事力増強の義務を負わされている。</li> <li>○アメリカの戦争に巻き込まれる危険がある。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">否定側の予想される主張</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基地のため住宅問題が深刻</li> <li>○日米関係が親密であったため、高度経済成長が可能になった。</li> <li>○安保条約がなければ自前で軍事費を負担しなくてはならなくなる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★効果的な資料や情報に基づいて自分の考えを発表したり討論したりできたか。＜技・表＞</li> <li>◇相互討論で、新しい論点が出ていないか気をつけて聞くように、審判に指示する。</li> <li>◇与えられた観点で、評価、判定できるように支援する。</li> <li>★積極的に発言したり、話し合ったり、意見を聞いたりできたか。＜関・意・態＞</li> <li>◇判定は、判定基準に基づいて行うよう説明する。</li> </ul> |

|          |                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                        |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終判定 &lt;判定用紙への記入も含む&gt;</li> <li>・生徒からの講評・感想</li> <li>・教師からの講評</li> <li>・本音で議論</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・判定用紙に沿って判定を行う。</li> <li>・司会者は、聴衆(審判)にカードを提示させることで結果を判定し、発表する。</li> <li>・各チームの良かった点を聴衆から発表させる。</li> <li>・ディベートの争点がどこだったのかを確認する。</li> <li>・全員で論題について本音で議論する。</li> </ul> |  <p>☆行われたディベートマッチについて、生徒の良さを認め、態度面、内容面について講評を行う。</p> |
| 整理<br>発展 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートマッチを踏まえ、「国際平和のために日本のとるべき立場と役割」について小論文を書く。</li> <li>・自己評価、相互評価を行う。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる様々な意見と練りあった後、自分の考えを深める。</li> </ul>                                                | <p>★論題に対して多面的な見方や考え方ができたか。&lt;思考・判断&gt;</p>         |

#### 4 授業の考察

自己評価カード及び小論文をもとに、ディベートを取り入れた課題学習が主体的に学ぶ生徒の育成に有効であったか検証を行った。

(1) 自ら課題を設定し、追究することができたか。



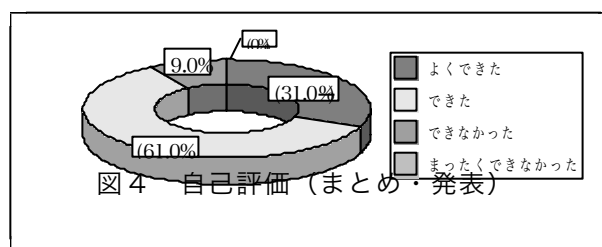
- ・インターネットで調べ学習したり、楽しく積極的に学習できた (M君)。
- ・みんなで課題を決めて協力して楽しみながら調べることができ、貴重な体験でした (Cさん)。
- ・日頃、ただ授業では条約の名前を聞いて年代や風景などを聞いて覚えるだけだが、今回は自ら課題を見つけ調べたりして全く知らなかったこともわかったし、いつもより夢中になった (Aさん)。
- ・父が那覇防衛施設局に勤めているため、父からいろいろな情報をもらい、すごく勉強になりました (Sさん)。

(自己評価カードの感想)

自己評価の集計の結果、94%の生徒が、(1)に対し、「できた」と回答している。その理由として、M君の感想にもあるように、事前のアンケートで生徒が興味を持っているインターネットでの検索の学

習を取り入れたことや、一斉授業では体験できない、自ら課題を決めて級友と調べ合えるということが、授業への参加意欲を引き出せたのだろう。

(2) 級友と協力し、まとめ、発表することができたか。



- ・ディベートをやってみて、1つの分野(物事)について細かく調べ、異なる意見、違った見方から話し合うことの楽しさを知りました (wさん)。
- ・難しいと思ったけど実際、友達と協力しながらまとめたりディベートしたら、おもしろくて今度は、違うテーマに挑戦したいです (Mさん)。
- ・先生のようにまとめて発表することは自分も良く理解しなくてはいけなと感じたが、とても楽しかった (R君)。
- ・いつもはおとなしい生徒でも今回の企画で違う面がみれたし、一人一人の意見が聞けたのでとても良い機会だった。
- ・ディベートの前日に調べ学習をしながらグループ内でいろいろたくさん話し合って自分の中でも理解度が高まってすごくよかったです (Yさん)。(自己評価カードの感想)

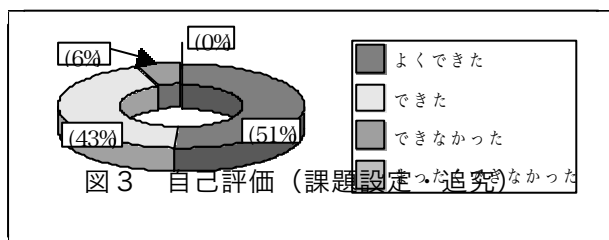
自己評価カードでは、(2)に対し、91%の生徒が、「できた」と回答している。その主な理由を感想から分析すると級友と工夫してまとめ、発表する

|          |                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                        |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終判定 &lt;判定用紙への記入も含む&gt;</li> <li>・生徒からの講評・感想</li> <li>・教師からの講評</li> <li>・本音で議論</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・判定用紙に沿って判定を行う。</li> <li>・司会者は、聴衆(審判)にカードを提示させることで結果を判定し、発表する。</li> <li>・各チームの良かった点を聴衆から発表させる。</li> <li>・ディベートの争点がどこだったのかを確認する。</li> <li>・全員で論題について本音で議論する。</li> </ul> |  <p>☆行われたディベートマッチについて、生徒の良さを認め、態度面、内容面について講評を行う。</p> |
| 整理<br>発展 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートマッチを踏まえ、「国際平和のために日本のとるべき立場と役割」について小論文を書く。</li> <li>・自己評価、相互評価を行う。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる様々な意見と練りあった後、自分の考えを深める。</li> </ul>                                                | <p>★論題に対して多面的な見方や考え方ができたか。&lt;思考・判断&gt;</p>         |

#### 4 授業の考察

自己評価カード及び小論文をもとに、ディベートを取り入れた課題学習が主体的に学ぶ生徒の育成に有効であったか検証を行った。

(1) 自ら課題を設定し、追究することができたか。



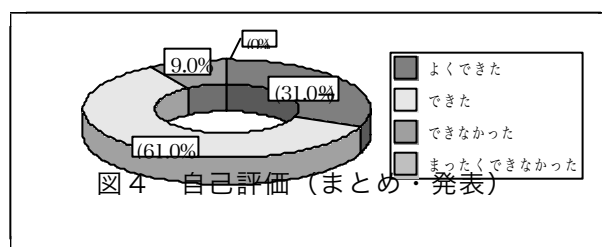
- ・インターネットで調べ学習したり、楽しく積極的に学習できた (M君)。
- ・みんなで課題を決めて協力して楽しみながら調べることができ、貴重な体験でした (Cさん)。
- ・日頃、ただ授業では条約の名前を聞いて年代や風景などを聞いて覚えるだけだが、今回は自ら課題を見つけ調べたりして全く知らなかったこともわかったし、いつもより夢中になった (Aさん)。
- ・父が那覇防衛施設局に勤めているため、父からいろいろな情報をもらい、すごく勉強になりました (Sさん)。

(自己評価カードの感想)

自己評価の集計の結果、94%の生徒が、(1)に対し、「できた」と回答している。その理由として、M君の感想にもあるように、事前のアンケートで生徒が興味を持っているインターネットでの検索の学

習を取り入れたことや、一斉授業では体験できない、自ら課題を決めて級友と調べ合えるということが、授業への参加意欲を引き出せたのだろう。

(2) 級友と協力し、まとめ、発表することができたか。



- ・ディベートをやってみて、1つの分野(物事)について細かく調べ、異なる意見、違った見方から話し合うことの楽しさを知りました (wさん)。
- ・難しいと思ったけど実際、友達と協力しながらまとめたりディベートしたら、おもしろくて今度は、違うテーマに挑戦したいです (Mさん)。
- ・先生のようにまとめて発表することは自分も良く理解しなくてはいけなと感じたが、とても楽しかった (R君)。
- ・いつもはおとなしい生徒でも今回の企画で違う面がみれたし、一人一人の意見が聞けたのでとても良い機会だった。
- ・ディベートの前日に調べ学習をしながらグループ内でいろいろたくさん話し合って自分の中でも理解度が高まってすごくよかったです (Yさん)。(自己評価カードの感想)

自己評価カードでは、(2)に対し、91%の生徒が、「できた」と回答している。その主な理由を感想から分析すると級友と工夫してまとめ、発表する



喜びや、ディベートで級友の発言を聞けることに喜びや成就感を感じているようだ。また、「できなかった」と答えたのは、学習に興味がないということではなく、ディベートで負けたことで自分に対し、納得がいけないという理由からである。

### (3) 自分と異なる立場をふまえ、自分なりの意見を持てたか。

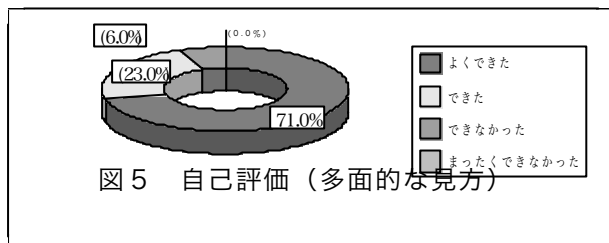


図5 自己評価（多面的な見方）

今回のディベートで、私は、日米安保の否定側で主張したけれど、私は、今のままでいいと思います。確かに、騒音問題や婦女暴行事件など多くの問題については、改善していくように米軍が心がけるべきだと思います。

しかし、米軍及び条約のおかげで経済の発展や軍事費用などをかけなくてすんだという良い面があるのです。お互いが助け合い、これからも協力し合っていくことが必要だと思います（Sさん）。

・国際平和を願うのは、世界各国の共通の願いだと思います。ディベートで日米安保の実態を知った今、もっと平和に向けて日本は先に進まないといけなと思います。日本発、沖縄発、首里高発の国際平和に向けての歩みを起こしていないかぎり夢は、夢のままでと思います。「現実的に…」とよく口にする人がいますが理想は理想のまま、現実にはなりません。恐怖や不安を一人一人が恐れずに進めば国際平和に近づくはずだと感じました（S君）。

（ディベート後の小論文より）

自己評価では、(3)について94%の生徒が「できた」と答えている。その理由には、ディベートマッチで白熱した議論が展開されただけでなく、ディベートの前に発表班が安保条約やPKO問題についてわかりやすく説明し全員が基礎知識をしっかり習得できたことも忘れてはならない。

また、小論文の下線部の部分から、ディベートで多面的な意見を聞き、自分と異なる意見をふまえて自分なりの意見を深めている様子が伺える。

最後に、今回のディベートを取り入れた課題学習  
＜主な参考文献＞

北俊夫著 1997 『「社会科の授業」は、どう変わらなければならないか』 明治図書  
岩田一彦他編 1990 『個を生かす「課題学習」とは』 東京書籍  
東京学芸大学附属小金井小学校著 1986 『自ら学ぶ力が育つ学習』 東洋館出版社

の指導過程（全6時間）を通して、「楽しく意欲的に学習できた」ことを明らかにするために、生徒の自己評価（4点満点）を集計し、得点を比較してみた。その結果、第1時の課題設定、第2時の課題追究、第3時と授業が進むにつれその値がまし、第6時には、全員が楽しく意欲的に活動できたと感じていたことがわかった。

以上のことから、この課題学習が主体的な学習に不可欠な意欲を高めることに有効であることが検証できたと考える。

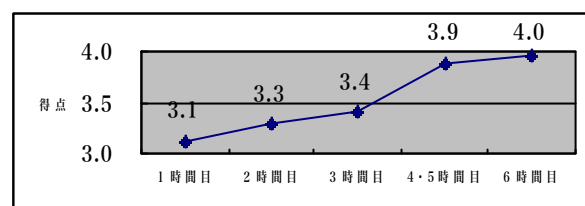


図6 意欲・主体性の伸び



課題追究の場面

## IV まとめと今後の課題

主体的に学ぶ公民科授業づくりをテーマに研究を進めてきた。成果として「課題学習を行うことで生徒の活躍の場を多くし、それが学習意欲につながった」「質疑応答やディベートを通して、多面的な見方を持ち、さらに自分の考えを深めることができた」等があげられる。

今後の課題として、調べ学習を充実させるためにインターネットや図書館が自由に使えるように指導計画を工夫したい。そして、生徒が目を輝かせて自ら学習したいと思える課題学習の実践をさらに追究していきたい。